



竹田純郎 [著]
(金城学院大学名誉教授)

技術時代における宗教、 キリスト教

9月10日刊行予定

ただ巻き込まれるのか。抗する道はあるのか。

現代世界を覆い尽くす数々の戦争や侵略行為は、既存の宗教によって正当化されて留まるところを知らず、人も自然も滅びの瀬戸際に立たされている。ハイデガーが「総駆り立て体制」と呼んだ、現代の技術時代という歯車の中で、キリスト教はそれに抗する道を開けるのか。武田泰淳、S・ヴェイユ、D・ボンヘッファーからルオーの絵画「キリストと漁夫たち」へと至る深い思索からその活路を鮮やかに描き出す。

ジョルジュ・ルオーの名作「キリストと漁夫たち」に込められたメッセージを現代に読み解く！

ルオーが宗教的風景画において描いた「いつも場末にいるキリスト」は、現代文明の矛盾のすべてを一身に背負い込んだ最も弱く小さな人びとの苦悩を共に分かちもつ存在を表わしている。その画像は、神なるものと自然なるものとの和解を示唆することによって、人間存在と、一切を有用性で量ってしまう現代世界に潜む矛盾、すなわち人間と自然を利用可能なものへと征服し尽くす矛盾に警鐘乱打したものである。(本書より)

序 本書は、なにを問うのか

第一章 カニバリズム 武田泰淳の文学作品に即して

第二章 ナルシシズム

第三章 オリエンタリズムの彼方 シモーヌ・ヴェイユに即して

第四章 責任倫理 D・ボンヘッファーに即して

第五章 技術時代における宗教、キリスト教

終章 いつも場末にいるキリスト

竹田 純郎 (たけだ・すみお)

1945年伊勢市に生まれる。東北大学大学院文学研究科哲学専攻博士課程中退。Ph.D (ドイツ・チュービンゲン大学)。金沢大学助教授、立教大学助教授、金城学院大学教授を経て、現在、金城学院大学名誉教授。

著書:『生きることの解釈学』(勁草書房、1994年)『テキストと解釈』(共著 岩波書店、1994年)、『生命の哲学』(ナカニシヤ出版、2000年)、『モダンという時代』(法政大学出版局、2007年)、『生命の宗教 キリスト教』(リトン、2017年)等。

訳書等: R・ブブナー『現代哲学の戦略』(共訳、勁草書房、1986年)、編集校閲『ディルタイ全集』第4巻、第9巻、第10巻(法政大学出版局、2010年、2014年、2016年)。

技術時代における宗教、 キリスト教 竹田 純郎 [著]



YOBEL Inc.

A5判・216頁・予価2,200円(税込)

ISBN978-4-911054-66-6 C0016 本体予価2,000円+税

ヨベル YOBEL Inc. 〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1 T 03-3818-4851 F 03-3818-4858 <https://yobel.co.jp>